

特別展 建立 900 年「中尊寺金色堂」

東京国立博物館 本館特別 5 室 2024. 01. 23～04. 14



国宝「中尊寺金色堂」は、1124 年（平安時代後期）に奥州の豪族「藤原清衡（きよひら）」（1056～1128）が、当地でとれた沢山の「金」を京都に売り、その費用で都から遠く離れた東北・平泉に 3 万枚もの金箔を使用して建立したもので、東北地方現存最古の貴重な建造物として名高い。

本展は、建立 900 年記念として開催され、「平泉の至宝の歴史的公開」として、堂内で最も重要な中央壇に安置される「国宝の仏像」を紹介するとともに、8KCG により金色堂を原寸大で大型ディスプレイにて再現されている。



<見どころ>

1. 初めて中央壇上の「国宝仏像 11 体」が揃って展示。

金色堂内に設けられた 3 つの須弥壇（しゅみだん）の内部に置かれている棺には、いまもそれぞれ遺体が収められていて、中央壇内部に眠るのが奥州藤原氏初代に金色堂を建立した「藤原清衡」であると考えられている。

本展では、この金色堂の須弥壇のうち、最も重要といえる中央壇に安置される「11 体」がすべて展示されるが、仏像がそろって寺外で公開されるのは初めてのことであり、併せて堂内を荘厳していた数々の工芸品が紹介されている。

2. 超高精細な 8KCG で、実物大の金色堂を大型ディスプレイ上に再現。

8KCG は、NHK と東京国立博物館が共同で開発したデジタルアーカイブの手法で、まるで実物を写し取るように文化財を記録し、900 年間祈りがささげられてきた黄金に輝く空間を、迫力ある美しい映像で体験できる機会である。